

読書バリアフリー研究会 アンケート回答 (2015_10_25 佐賀会場)
～みんなに読む喜びと楽しさを伝えよう～

参加者 46、アンケート回収 41

1. この講座をどちらでお知りになりましたか。

新聞・雑誌	1	朝日新聞
ちらし・DM	8	
友人・知人の紹介	11	
ウェブサイト・ブログ	6	当財団 HP 4、県立図書館 HP 2
メーリングリスト	3	
その他	12	図書館 8、職場 2、自閉症親の会 1
合計	41	

2. 今回の講座の満足度をお聞かせ下さい。

満足	やや満足	やや不満	不満	未記入
34	5	0	0	2

その理由をお聞かせ下さい。

満足の理由
<ul style="list-style-type: none"> ・とてもわかりやすい内容でした。またの開催を希望します。 ・今後、合理的配慮として提供しなければならない領域について有効な方法、内容等を知ることができた。 ・マルチメディア DAISY 図書の存在を知ったのはここ最近です。DAISY 図書をうまく活用していろいろな環境の子どもたちに本を読んでもらいたいという思いを強く持ちました。 ・知るきっかけになりました。 ・特別支援教育のニーズがある子どもたちへの学校図書館教育の実践例やバリアフリー図書についての情報を聞くことができた。 ・マルチメディア DAISY 教科書・図書について知りたかった情報を得ることができた。 ・障害を持っている児童、生徒にとって、読みやすい本、理解しやすいものはなかなか一般の書店には数がない状況なので、今回のような研修でいろいろなものを紹介していただけるのはとても役に立ちます。 ・市立図書館に勤めているが「本を読むのが嫌い、苦手という子どもにどんな本を読ませたらいいか」などよく相談を受ける。全く本を読まないのか、今までどんな本を読んでいるのかとインタビューをしてきたが、今回講座を聞くと、好き嫌いというだけの理由ではないように思う。本を子どもに提供するが、文字が読みづらいなどあまり注目をしていなかった。特別支援の生徒も利用をしているが、彼らにとって読みやすい資料、読みたいと思えるディスプレイの配置などできているのか、図書館を見直してみるのも、今日参加できなかった職場の人間と図書館の役割や司書として考えることを意見交換するきっかけにもなると思う。 ・特別支援学級と通級教室があり、読みに困難を抱えた子どもも相当数いるように感じておりましたので、とてもありがたいお話で、早速持ち帰り相談しようと思いました。 ・くわしく知ることができて良かったです。娘が読みに関してできないことの理由がわかったような気がします。自分も含めて互いに知りあうこと、コミュニケーションが1番だと思いました。新しく見る目を教えてもらいました。また、いろいろな子どもたちのところ（施設）にも行きますので参考になりました。 ・学習障害について、ある程度の知識はありましたが、書く、読むが苦手な子という程度に認識していた子が実はそうなのかも…と違った目で見ることが必要だと思いました。勉強が遅れているのではないのだとわかると、その子に合った援助の仕方をいろいろ模索してみようという気持ちになりました。目からウロコな部分がかかりました。平等＝公平ではないと実感しました。

- ・たくさんの種類の書籍など知ることができた。ずっと疑問だった青い鳥文庫の大活字。弱視など子どもの障害のためと知り、疑問がとけました。障害についてよく耳にしますが、実態はよく知らずにいたのでも詳しく講義していただいて大変ためになりました。
- ・初めてこのような研究会に参加させていただきました。何もかもがすごく勉強になりました。私は小学校で読み聞かせをしています。ほとんどの子どもたちがふつうに聴いてくれていると思っていましたが、もしかして違うのでは？と感じました。これから今日学んだことを頭に置きながら子どもたちと接していきたいです。
- ・ひとことで、読書が困難と言っても、こんなにいろいろな状況があるのかと驚きました。ディスレクシアという言葉は聞いたことはあっても、どういった障害なのかわからなかったり、DAISYは見たことはあっても、どういう風に使うのか、どんな効果があるのか、はっきりと知らないという状態でした。今回いろいろな視点から教えていただけて、知ることができてよかったです。読みたいけれど読めないという人たちがいることや支援の方法など、とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・読書に障害のある状況が様々であること、その現状を理解できた。情報通信技術の支援がかなり有効であることが理解できた。
- ・現在は病院の図書室に勤務していますが、その前7~8年ほど学校の図書室に勤務しており、その時読み聞かせのために絵本を探していました。その中の1冊にディスレクシアの子どもが主人公の絵本があり、気になっていました。現在は子どもたちの読書から少し遠ざかっていますが、今後何らかの形・方法で関わっていければと考え参加させていただきました。現場の具体的な話が聞け、とてもよかったです。ディスレクシアの話は特に大変興味深く、もっと広く理解されるようになればと思いました。
- ・もっと多くの方に聴いてもらいたい内容でした。またもっとも聴いていたい内容でした。それぞれの先生の1時間があっという間にすぎ、もう少し深いところまできかせていただきたかったです。
- ・児島先生の話は現場のリアルで分かりやすかったです。少しだけでも現場で使ってみたいと思いました。
- ・学習障害についてよく分からなかったのですが、とてもわかりやすい説明で支援法も提示してもらいよかったです。
- ・いろいろな伝え方の「本」について紹介してもらいよかったです。バリアを除く方法に感心しました。
- ・障害があることをまわりの人たちがわかってくれない。また障害も一種ではなくいろんな形があるということ当事者だけではなくまわりの人たちを巻き込んで理解してもらえ、ということがよく説明されていた。私は聴覚に若干の障害があるため、読書にのめりこんだが、いろいろな得るものがあつた。読書を楽しんでもらう方法などもっと多く考えていきたい。
- ・以前、学校（小学校の図書館）に勤務していた時、特別支援学級の子ども、また通常学級に在籍しているがおそらく読み書き障害があつたらう子どもたちと接してきました。大好きな友だちが読んでいた本をほこらしげに読む子…いました。なつかしく思い出しました。
- ・読み書きを苦手としている子どもたちの感覚がよく分かりました。彼らには「ああいう風に」見えていたのですね！驚きです。いたのです！読書をする時ものすごいしかめっつら（目を細めて）している子が。どうしたのかと聞いたら、「黒い虫みたいなのがウゴウゴ動いていて読みづらい」（文字のことです）私にはよく分かりませんでした。黒い小さめの下敷きで他の文をかくして読む部分を一行ずつだけ出すというやり方をすすめてみたら、多少ましと言っていました…。視力の問題ではないのですね。
- ・「バリアフリー」という言葉はずっと前から知っていたが、それを解消するための方法がわからなかった。支援を必要としている人と出会っても、ニーズに応えられないままきていました。
- ・便利なものがあると知れば使います。「知る」だけでこんなに違うのですね。知れてよかった。知っていれば、見方、考え方がガラッと変わってきます。自分の世界がまた一つ広がりました。
- ・聞かないと知らないということを実感した。障害と一言と言ってもそれぞれであること。いろいろなサービスがあること。工夫する大切さなどを学べた。知っているサービスが幅が広がると思います。漢字が苦手な我が子に「努力が足りない」と叱ってきましたが…ちょっと考えさせられました。

- ・読書バリアフリーという言葉を知り、興味があり、参加しました。健常児に読書をさせるのも難しいのに、障害児に読書をさせてあげるための支援を実践されていると聞きびっくりしました。また、個々の生徒の特性を把握することで充実した読書を提供できると考えました。今後はデージー教科書が広く周知され、読書の喜びを一人でも多くの子に味わってもらいたいと思いました。
- ・さまざまな情報をいただくことができました。また、今まで持っている情報とリンクづけてきて、今後役立てていけそうです。
- ・講座に参加する前までは読書バリアフリーというのは特別な障害のある人に対して必要なものだと思っていた。視覚障害、上肢障害、知的障害、病弱、発達障害など、障害も多様であり、単に心身機能のバリアをとくだけではなく、読みたい、知りたいという気持ちを支援することが大事だと気づかされた。ハンディキャップサービスではなく多文化サービスという捉え方で読書バリアフリーに取り組む方がよいのかなと思った。
- ・図書館に点字資料、布えほん、デージーをある程度そろえているが、利用が全く伸びないことに悩んでいた。今回の研修で、今後のサービスのヒントを得ることができた。ただ図書館に資料を置いておくだけでは、バリアを取りはらったことにはならない。訪問や宅配などによって利用者と資料が会うきっかけづくりを今後は検討したい。
- ・まだ今から障害者サービスを検討している段階なので、学習障害の実際から学校図書館での試みの実践は参考になりました。まだまだ頭が固いようです。
- ・障害ということについて初めて聴くことばかりで、とても興味深く勉強になりました。県立図書館の役割を考えるきっかけになりました。
- ・とてもわかりやすく、また知らないことがたくさんあることがわかり、もう少しお聞きしたいと思いました。
- ・特別支援クラスがある通常学校に勤務しています。学校図書館として何ができるか、児島先生の話はとても参考になりました。ありがとうございました。
- ・学習障害、読み書き障害について、理解させようと声かけ支援を行っていましたが、代替支援方法が有効情報と分かり、支援現場側からの立場で気が楽になりました。支援学校で図書活用されていないことが多い。タブレット活用法の話が聞け、現場でどのようにできるか課題でもあります。タブレット→ゲームと認知、学校でのタブレットがどのように使われているかの情報がない。
- ・本というものが誰にでも身近なものであり、余暇としても取り入れやすいものであること、定型者だけでなくさまざまな障害者にとっても定型者と同じように身近なものでなければならない。そのために、障害者の方が手に取りやすいような仕組みを考えることが私たちの役目でもある。読み聞かせの時間を施設でも取り入れているが、今日の学びでヒントを得たことを取り入れ、再度考え直していきたいと思う。より良い環境づくりを、より良い支援に役立てていきたいと思いました。本日はありがとうございました。
- ・教えていただきたい課題がよく理解できたこと、今後の取り組みに大変参考になった。
- ・特別支援学校の現場で何に取り組まれているのか。具体的な内容を聞くことができ、とても参考になりました。特にバリアフリー資料を使った時の生徒の声（感想）がこれまで理解しづらかったのが新鮮でした。本当に役立っていることがわかりました、また、読み書き障害について、誤解をしていたことも多かったです。障害について理解するために、今日のお話を今後に役立てていきたいです。
- ・読み書き障害の特徴や支援の方法など、これまであまり意識していなかったことについて知り、考える機会となったので大変良かった。障害者差別解消法の施行を前にして、とても時機に合った企画だったと思う。
- ・未記入 1

やや満足の原因

- ・知的障害、学習障害の子どもに具体的な支援の仕方を聞くことができた。
- ・さまざまな方面からバリアフリー図書についての課題に触れることができて良かった。私は大学生で、美術の教員免許を取るつもりで教育系の講義を受けてきたけれども、こういった（DAISY）ものがあると知っている教授は少ないのではないかと思ったので、知名度が上がるといいなと思った。現場の先生にも知ってもらいたい。
- ・現場の方の声が聞けて、とてもよかったです。
- ・環境を変えれば、いろんな不可能が可能になる。個人のバリアより、環境のバリアの方が障害のある方にとってバリアが大きいということがわかりました。また、障害と言っても視覚障害1つをとっても何となく全盲の方だけが障害があるイメージを、勝手なイメージで抱いていましたが、非常にさまざまな障害があることを知ることができ、勉強になりました。
- ・今日は貴重なお話を聞く機会をありがとうございました。講座の中で「学習障害」の内容が非常にわかりやすく、理解できました。また、今後の支援にもつなげていきたいと思えます。結論から言えば、脳へのインプットの方法はその人がわかる方法であれば、どのような手段を使用してもよいと私も強く感じております。その点では DAISY は非常に有効な手段であると思えます。

満足度未記入（理由記載のみ）

- ・学校における知的支援の必要について、ポイントは人と人とのコミュニケーションの持ち方。その根本は学校、教師の人づくり、と痛感。
- ・体験に感動した。
- ・学校に限らず対面する人すべてに対応することと思う。
- ・私の活動は司書とかではなく、ボランティアで読みかたりをやっています。今は放課後児童クラブでも仕事をしています。発達障害の子どもさんと接することが多く「II 学習障害って何だろう」はとても興味深くきかせていただきました。特別支援学校にも年に何日も行って本を読ませていただいています。今日のお話を聞いて参考になりました。知らない世界をいろいろ見せていただきました。

3. その他、お気づきの点がございましたら何でもお聞かせ下さい。

- ・福祉関係者ですが、教育関係の方に理解が広がると子どもたちは Happy かなと強く感じました。
- ・今後も情報提供をしていただきたいです。実際の支援例の紹介も聞きたいと思いました。
- ・この研修会の場で購入できる本があるとありがたいです。関心を持ったその時に読みたいので。
- ・収録に協力されている方や個人でマルチメディア DAISY を利用している方のお話も聞いてみたい。
- ・担任・係を通じて貸し出しができる子どもと、まだ支援を受けていない子ども（障害を隠していたり、気づいていない）がいるので、後者につなげる方法も模索していきたい。
- ・パソコン等が十分に子どもたちの助けになっているようですが、今回デモの時も動かないということは、子どもが使用する点でスムーズに動かない可能性もあり、本を知る、見たいという気持ちもそがれ、使うことの苦手な私自身放り出したくなります。もっと簡単に操作できるものになっていくことを望みます。
- ・めくり方を知らない子どももいるとか。紙では大変でも、本という形を知ること大切だと思います。何とか両方の良いところをうまく使えるといいです。
- ・タブレット等端末を利用する際にブルーライトの影響が心配です。私も電子図書を利用しますがドライアイやかすみ目に苦しめられます。子どもが利用する上で、留意しなければならない点をきちんと説明しなければならないのではないのでしょうか。
- ・やはりすべてにおいて費用がかかりますね。
- ・電子書籍をバリアフリー図書として自由に利用できる可能性は将来到来するか。マルチメディア DAISY が誰でも作成できるようになれば。

- もっと多くの方々に知ってもらえたらいいと感じました。これからも大変だとは思いますがご尽力を期待いたします。私も今日のことを友人や知り合いの方に広めていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。
- もっと学校等で保護者の方々、先生等にこうした話を聞く機会があれば良いのではないかと思います。またこうした教材が高齢者（認知症、脳卒中リハビリ等）にも使えるものがあるようにと思いました。
- この研究会は全国で広がっていかねばならない濃い会だと思います。これからもあちこちで広めてください。そしてまた佐賀会場での開催があればいいなと思います。
- 「わいわい文庫」について初めて知りました。障害児支援施設で仕事をしていますが、土日の夕方の余暇時間をどう過ごさせるか悩むのですが、ツールとして使えそうです。上手に使うための支援方法や使い方の工夫を考えないといけないのですが、導入できればと思います（上司にお願いしたいと思います）。
- わいわい文庫の短縮版、紙芝居版の工夫は感心しました。
- 一日有意義な講座を受けさせていただき、ありがとうございました。
- 今回の出席者の方も、図書関係者、官公庁関係者の方がほとんどでした。もっと一般の人たちにも知ってもらいたいと思います。
- 珍しいバリアフリー資料が見ることができてよかったです。特に LL ブック。見たことなかった！実物を見るのが一番ですね。
- 今は公共図書館にいますが、いずれ学校図書館に戻りたいと思っています。今回、県立図書館で研究会があると聞いてぜひ話を聞きたいと思ってきました。よくぞ佐賀で開催してくださいました！（熊本だったら参加できなかったです）佐賀に来てくださって本当にありがとうございました。
- 参加できて良かったです。
- 今後も同様の研修会があれば参加したいです。
- このような会をまた開催していただきたい。また資料提供をする側の実践的な研修の場を設けてほしい。
- どの子にも、本の楽しさを伝えることの大切さ、自分の考えを伝えられるようになることの大切さがわかった。「わいわい文庫」を初めて知った。普通の学校でも支援が必要な子どもはいるので、もっと広まればいいと思う。
- わいわい文庫が、一般家庭等、個人で使いたい方むけも可能であれば理想的だと思います。
- これからもいろいろと研修を通して教えてほしいです。公共図書館が DAISY をどういう風に必要な子に渡していくかが課題かなと思いました（ハードを買う予算がない）。
- 小さな一歩ではありますが地域でも DAISY 図書の紹介に努めていきたいと思っています。今日はありがとうございました。
- 電子書籍に抵抗があったが、手触り感との併用について、両方を組み合わせるという考えは新鮮だった。
- 伊藤忠記念財団の活動は素晴らしいと思います。私たち子ども文庫も助成していただきました。ありがとうございます。どんな子にも本を楽しんでもらいたいと私たちもがんばっています。今日はありがとうございました。
- 未記入 17